

# 団塊の世代が 過ぎ去った千二小時代

編集部

## 一. はじめに

「団塊の世代」とは皆様もご存じのように堺屋太一氏の造語で、昭和二十二年から二十四年生まれを指します。

- \* 小学校への入学年次↓ 昭和二十九年〜三十一年
- \* 同じく卒業年次↓ 昭和三十五年〜三十七年
- \* 千二小でいえば、三十一回生〜三十三回生です。

この団塊の世代の皆さんは、前後の学年と比べて圧倒的な大人数で、厳しい競争社会を生き抜いてきました。衣食住不足だけでなく、学校・校舎・教師・運動場を始め遊具・設備・器具まで不足し、進学・就職はもとより、結婚においても男女数のアンバランスから苦労されたことでしょう。

そんな団塊の世代の皆さんも、今年から順次六十五歳となり、時間的なゆとりが生じるものと思います。

## 二. なぜ今、団塊の世代をとりあげるのか？

こと千里山会に関する団塊世代の皆さんの活動状況をみますと、決して積極的とは申せません。それだけ厳しい世を過ごされてきたからかも知れません。

でも今年あたりから徐々に、男性・女性共に生活のリズムが変わってこられるのでは？

是非、今後は千里山会の中の団塊の世代（千里山会で突出した存在）になっていただきたいと思えます。

そこで今回、団塊の世代の方々が過ごされた千二小時代を振り返り、思い出話に花を咲かせていただきたいと企画いたしました。

藤村修内閣官房長官も三十三回生で、団塊の世代最後の学年です。

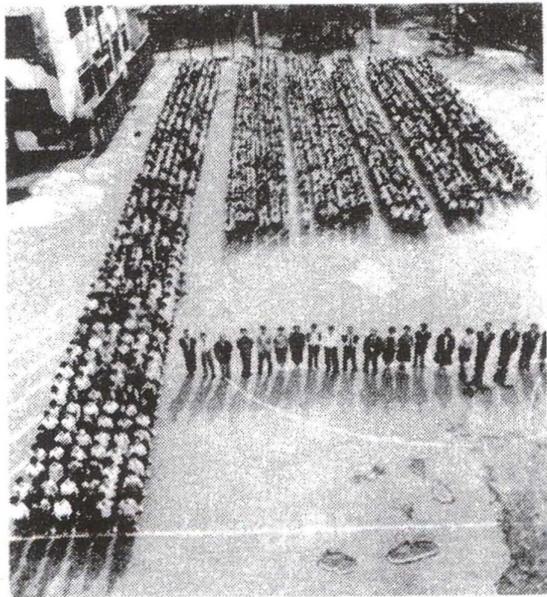
## 三. その頃の千二小・千里山・日本のできごと

三年に及ぶ団塊の世代の皆さんが千二小で過ごされたのは昭和二十九年〜三十七年で、その頃の千里第二小学校、千里山・吹田市、日本がどのような状況であったかを次頁で振り返ってみたいと思います。

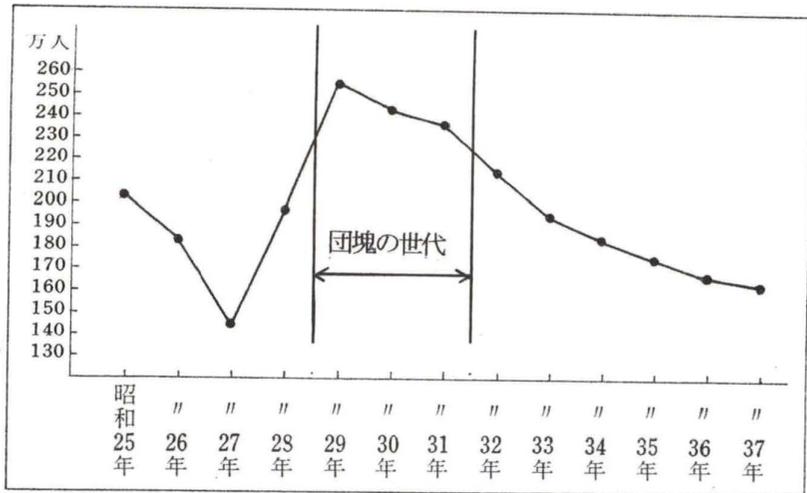
# 圧倒的 大多数

小学校の朝礼風景

右端から順次学年が下がり、左端が昭和二十二年生まれの一年生 写真の手前（下）は先生たち（河出書房新社 「わが世代 昭和二十二年生まれ」より 小学校名は不明）



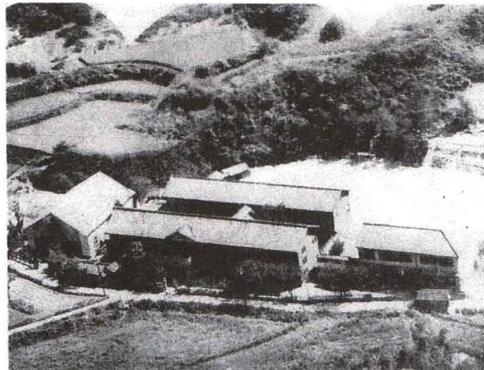
小学校入学者数 推移 河出書房新社 「わが世代 昭和22年生まれ」より  
22年生まれ（29年入学）の圧倒的多数を裏付けるのが、下のグラフ 32年以降の激減ぶりに注意



昭和22年～24年

千二小のあゆみ

- 22年 子どもの数は増えたのに敗戦の痛手で校舎は増えず、24年ころまで1クラス70人近くのすし詰め教室や、二部授業が続けられた。
- 23年 PTA発足
- 24年 木造校舎をつつかい棒で支える。
- 夏 6年生は修学旅行のかわりに、琵琶湖へ日帰りの水泳に行く。
- 秋 モルタル2階建4教室の校舎完成。
- 秋 創立20周年を祝い、2日間の文化祭を開く。



昭和24年木造モルタル張2階4教室新校舎完成の頃

千里山・吹田市のできごと

- 22年 私立千里山中学校が経営難に陥り、吹田市が買収。新学制により千里山高校となる。

日本のできごと

- 22年 6・3・3制発足  
新制中学設置 新制大学各地に設置 湯川秀樹ノーベル賞受賞 炭鉱節 東京ブリウギ
- 23年 帝銀事件 サマータイム 太宰治入水自殺 アロハシヤツ 憧れのハワイ航路
- 24年 第一回「母の日」  
下山事件・三鷹事件・松川事件 お年玉年賀葉書始まる  
銀座カンカン娘 悲しき口笛 トンコ節 鐘の鳴る丘  
長崎の鐘 私は誰でしょう  
とんち教室 歌のおばさん  
あんみつ姫

昭和25年～27年

千二小のあゆみ

- 26年 4月 元私立桜蘭女学校跡地に(千里山東2丁目)に分校を設置し、253年生が通う。8学級
- この年修学旅行が復活したが配給制のため各自米を持参する。

千里山・吹田市のできごと

- 25年 3月 千里山東に第一市営住宅建設される
- 5月 千里山遊園地閉園売却
- 6月 千里山中学校、高等学校廃校 この校舎に吹田一中が入る



- 27年 千里山開発30周年の祭りが千里山自治会主催で催された。

日本のできごと

- 25年 朝鮮戦争開始 朝鮮特需 レッドパージ始まる  
金閣寺放火により延焼 千円札登場 パチンコ大流行  
水色のワルツ 赤い靴 鉄腕アトム おおミステーク  
プロ野球ナイター始まる
- 26年 NHK第一回紅白歌合戦 ラジオ体操復活 三原山大噴火 児童憲章成立 ジャズの流行 小型タクシー 脳溢血死 因の第一位 結核を抜く(第二位)  
上海帰りのリル あざみの歌  
アルプスの牧場
- 27年 黄変米 君の名は 白井義男世界チャンピオン ヘルシンキ・オリンピック開催

千二小のあゆみ

- 昭和28年～30年
- 29年 団塊の世代第一期生入学
- 旧新田村が吹田市に分村合併、旧下新田地区の児童を本校に編入する。
- 創立25周年記念祝賀式を行う。
- 30年 その頃1クラス60人で本校・分校に分かれ、木造校舎は古くなった。

千二小のあゆみ

- 30年 講堂に白あり発生校舎増築、運動場拡張の大運動を起すため、「千二小校増改築促進会」が結成
- 昭和31年～33年
- 31年 3月 吹き抜けの工事中の講堂で27回卒業式が実施された。
- 32年 2月 鉄筋コンクリートの講堂完成
- 8月 鉄筋3階建校舎第一期
- 15教室と給食調理室完成

千里山・吹田市のできごと

- 27年 吹田市赤十字奉仕団が旧町会単位で結成された。
- 千里山駅前にも美和遊園開設
- 28年 千里山西第二市営住宅20戸 河田第二市営住宅10戸建設



文化堂から千里山駅を望む

- 30年 住宅公団千里山団地1061戸建設着手
- 吹田市庁舎火災

千里山・吹田市のできごと

- 30年 吹田市自治会連合結成
- 千里山西緑ヶ丘分譲始まる。
- 31年 当時国内最大規模の住宅公団千里山団地完成
- 49棟1061戸

昭和30年頃の千里山駅



日本のできごと

- 27年 電気冷蔵庫 ナイロンプラウス登場 リング追分風と共に去りぬ 第三の男 テネシーワルツ 若者よ

- 28年 大相撲テレビ中継開始
- 伊東絹子ミスユニバース3位
- 真知子巻き シェーン 禁じられた遊び 終着駅 マンボ
- 29年 マリリンモンロー・ジョーデイマジオ来日 力道山・木村がシャープ兄弟とタグマッチ 第五福竜丸被災
- ローマの休日 笛吹童子
- 七人の侍 ゴジラ お富さん
- 30年 米軍基地反対砂川闘争始まる オネストジョン
- ウイーン少年合唱団

日本のできごと

- 30年 後半より神武景気
- 森永ヒ素ミルク中毒で死者
- ポディービル 太陽族
- エデンの東 ポロシヤツ
- 太陽の季節 暴力教室
- 31年 比叡山延暦寺焼失
- 三種の神器「もはや戦後ではない」 水俣病患者出る
- 四十八歳の抵抗 鉄人28号 愛ちゃんはお嫁に 夜と霧 狂った果実

- 32年 南極に昭和基地開設
- 東海村に原子の火ともる
- なべ底不況 よろめき 挽歌
- 錆びたナイフ 有楽町で逢いましよう 喜びも悲しみも幾歳月 戦場にかける橋

昭和33年～35年

千二小のあゆみ

33年 6月 新運動場拡張完成

34年 11月15日 創立30周年記念・校歌制定  
以後この日を創立祝賀記念日とする。

35年 第一期団塊世代卒業

昭和36年～39年

千二小のあゆみ

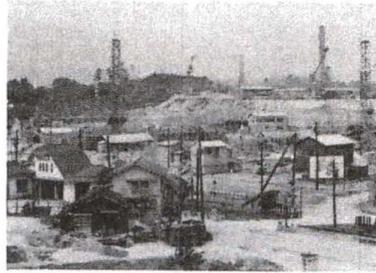
36年 7月 プール完成



校舎全景 (昭和32年) 鉄筋講堂並びに第一期3階建新校舎と新運動場完成

39年 7月 鉄筋校舎(第二期)増築  
9月 分校廃止 全学年が本校に揃う

千里山・吹田市のできごと



千里山駅の方からみた公園千里山アパートの建設風景(仲辻 章氏提供)

35年 千里ニュータウン第一次事業計画発表  
吹田市片山公園(千里丘陵南端)で二千万年前の古代象の下あごの化石発見  
千里山下水管修理・道路舗装すすむ。

日本のできごと

33年 名神高速道路着工 東京タワー完成 一万円札発行  
フラフープ 星は何でも知っている 私には貝になりたい オイ中村君 陽のあたる坂道  
34年 南極でタロー、ジローの生存確認 皇太子ご成婚 岩戸景気 カミナリ族 黒い花びら 黄色いさくらんぼ 南国土佐を後にして 人間の条件  
35年 安保改定反対の闘い 池田首相 国民所得倍増計画 日本社会党浅沼委員長刺殺される だっこちゃん アカシアの雨がやむとき 誰よりも君を愛す 潮来笠 太陽がいつぱい ララミー牧場

千里山・吹田市のできごと

36年 7月 千里ニュータウン起工式  
市立青少年の家開設  
37年 千里ニュータウン第一回入居開始(佐竹台・高野第)  
38年 阪急千里山～新千里開通(全線開通後「南千里」)  
千里山老人クラブ(福壽会)結成  
39年 7月 千里山緑ヶ丘に吹田第一中学校舎完成  
関大前・花壇町統合し 関大前駅 吹田駅も

日本のできごと

36年 ガガリーンの人工衛星打上げ ヘーシング優勝 上を向いて歩こう スーダラ節 東京ドドンパ娘 北上夜曲  
37年 堀江謙一太平洋単独横断 ツイスト 野生のエルザ いつでも夢を ベン・ケーシー  
38年 吉展ちゃん事件 力道山死亡 「こんにちば赤ちゃん」 江分利満氏の優雅な生活 アラビアのロレンス プレタポルテ流行  
39年 東海道新幹線・名神高速道路開通 東京オリピック開催 ウルトラC 根性 愛と死をみつめて 平凡パンチ コンパニオン

#### 四・団塊の世代が過ぎ去った千二小時代

左の表を見ていただくと団塊の世代の入学が始まる昭和二十九年より急激に生徒数が増え始めるのがよく解ります。

三十三年よりさらに増え続けるのは千里山東に完成した住宅公団の団地（1061戸）等の影響です。校舎・運動場等の諸設備の不足とそれらの老朽化で質・量ともに改善が進んだ時期でもあります。

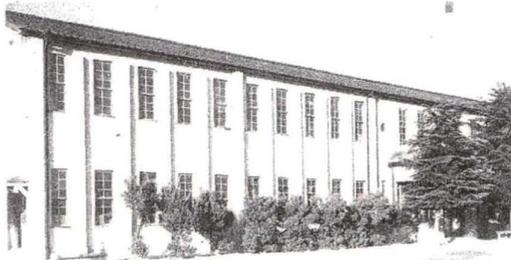
年度	学級数	職員数	児童数	卒業生数
4	8	9	314	33
5	8	9	344	40
6	9	10	407	53
7	10	11	457	72
8	11	12	479	66
9	11	12	521	68
10	11	12	502	61
11	12	13	547	65
12	12	14	597	113
13	12	14	565	84
14	12	14	595	87
15	12	14	619	91
16	12	14	678	99
17	14	17	732	100
18	14	17	778	105
19	15	17	832	144
20	18	22	1094	162
21	20	22	1004	163
22	18	25	1029	166
23	18	25	1031	177
24	18	26	1031	176
25	23	29	1145	144
26	23	31	1146	170
27	24	32	1121	192
28	25	32	1214	205
29	27	34	1410	212
30	28	34	1526	243
31	29	34	1567	230
32	33	39	1558	200
33	35	41	1868	264
34	36	42	1906	
合 計				3985

そのためいつも運動場の新築・拡張工事が続いた中の学園生活ではなかつたかと想像します。そして卒業された頃より千里ニュータウンの建設が始まり、やがて大阪万博へ。阪急千里山線の延長工事もありました。騒々しいが活気に満ちた幼少期を過ごされたことになりました。そのことが千里第二小学校の創立五十周年記念誌の「千二校のあゆみ 第六章 校舎増改築の運動と第七章 鉄筋校舎の完成」に詳しく述べられているので次頁から抜粋して転載します。

#### 校舎増改築の運動

年々増えて行く子どもたちが学ぶには、木造二棟とモルタル四教室では、あまりにもせまく、ついに昭和26年4月から、今の千里山東二丁目、戦前桜蘭女学校であった校舎を分校にし、二、三年生が通うことになりました。以後39年まで本・分校に分かれることになったのです。29年には、

旧新田村の下新田地区（今の春日町）が吹田市に合併され、その地区の子どもたちは千里山住宅を越えて千二校へ通うようになりまし。さらに団塊の世代の入学に伴い、千二校の児童数は、増え続けました。その上、昭和4年に建てられた講堂の柱が白アリに食い荒されていることが昭和30年8月に発見されたのです。



「講堂を鉄筋校舎で建て直すこと」「本・分校に分かれている不

便な学校、せまい木造校舎でなく、鉄筋校に増築を」という緊急な要求がPTAで真剣に語合われました。昭和30年8月2日、「千二校増改築促進会」が発足し、会長には、永らく千里山に住んでおられ、当時大阪高等裁判所の判事をされていた山崎薫さんが推されました。この時から山崎さんを先頭に、PTAをはじめ校区の各種団体、市民のみなさんが一丸となった大運動がはじまりました。

当時の吹田市は借金六億円をかかえ、苦しい財政状態でした。しかし山崎さんや、当時のPTA会長などの役員をされていた方々と校長の有川清夫先生が地区市民の絶大な協力のもとに、連日のように会議、市役所、府教育委員会との交渉を重ね、更に文部省にまで陳情されました。この熱意に市も、府教委も真剣に千二校の教育条件をよくするために努力され、ついに昭和31年12月、白壁の美しい鉄筋講堂が完成したのです。この間に、工事中の31年3月、卒業式を迎えました。卒業式を是非母校の講堂で挙げようという先生方やPTA役員、父母の熱意で、吹き抜けの工事中の天井に紅白の幕を張って式が行われました。今でこそどの学校にも大きな体育館が造られています。

市の財政が苦しく、建築材料も足りない当時、これほど進んだ設備を持った講堂は、おそらく全国にも稀だといわれるほど優れた建物でした。

講堂の改築について交渉が始められる前、昭和28年春、阪急電車は千里山駅の東につづく雑木林の山を買い取り、やがて住宅公団がその山を譲り受けて、ここに一大住宅団地を建設することになりました。昭和30年暮れから工事がはじまり、ブルドーザーや機械ショベルによって、みるみるうちに山が切り崩され、谷は埋められ、31年12月に、1061戸のアパートが完成しました。今の虹が丘・星が丘・霧が丘がそれです。当時の我が国全体でも一番規模の大きい団地でした。当然多くの児童が入ってくるのが予想され、校舎増築は急いで実現されねばならないので、「促進会」の方々は講堂改築と共に鉄筋校舎建設の大運動を開始されました。山崎さんを中心のねばり強い交渉結果、ついにこの問題は文部省・大蔵省・自治省・建設省・住宅公団の合同協議に発展したのです。その結果、「先ず住宅公団が学校の建設を行う。吹田市はその費用を18年間に返していく」という新しい方式が決められました。この方式は千二校がきっかけとなってそ

## 鉄筋校舎の完成

光あふれる丘の上、希望の鐘が鳴っている



新講堂で校歌発表会(昭34.11)

新装成った鉄筋講堂から軽快なメロディが流れてきました。PTAをはじめ校区市民の盛り上がった運動の結果、鉄筋講堂、鉄筋三階建校舎、新運動場が相次いで完成し、やがて昭和34年、創立30周年を迎えました。記念して校歌を制定することにな

の後、大きな団地建設のために人口が急増する地域で実行されることになりました。

こうして、木造校舎と運動場の南、小高い丘に鉄筋三階建15教室の校舎が昭和32年8月に完成したのです。まさに戦後吹田市で初めての本格的な鉄筋校舎でした。更に新しい運動場が是非必要だと市教育委員会に要求し、ついに今の広大な運動場が確保されました。こうして当時吹田一の立派な講堂、校舎、吹田一広い運動場が完成しました。「子どもたちによい教育環境を！」という念願のもとに、PTA、校区市民のみなさんの大変な熱意とねばり強い交渉の賜物でした。



完成した鉄筋校舎(第一期)の全景

り、歌詞が募集され、卒業生などから約125篇集まりました。未来に伸びる千二校の一層の発展にふさわしい歌にしようということで、あらためて木島憲次先生を中心に「校歌制定委員会」が作詞、作曲したが、今も歌い継がれている校歌です。この新校歌はその年の11月15日、創立30周年記念式で発表されました。創立当時、木造新校舎、講堂の完成も11月であったので、30周年記念式以来、毎年11月15日を創立祝賀日と定められました。

毎年夏、学校ではプールで皆が泳げるようになっていきます。今のプールが完成したのは昭和36年7月のことです。それまで、プールでの水泳学習は千里山西四丁目にある富士銀行寮内にあるプールを使用していました。このプールはもとも千里山住宅地の開発計画の中で、一番北の公園の施設として造られたものです。

「学校にプールを造って夏、思い切り泳ごう」という子どもたちや、PTAの願いによって、今のプールの工事が始まりました。このプールは、当時他校に見られなかった低学年用小プールや、循環消毒装置の完備した、時代の先端をゆくデラックスなプールとして

評判でした。8月にはプール開きが祝われ、元オリンピック選手の前上安太郎氏が模範水泳を披露されました。その時木島憲次先生が作詞作曲された「プール開きの祝歌」がみんなで歌われました。

“プール プール 待ちに待ったプール  
にここに笑顔がうつってる  
プール プール ぼくたちのプール  
心はずむよ よろこびに”

プールの完成によって、みんなが泳げることをめざして、先生方の熱意とみんなの努力が毎年続けられてきました。その中から昭和39・40年を筆頭にずっと、千二校の選手は吹田市や、三島地区の水泳大会で優秀な成績をおさめてきました。

住宅公団アパートの完成に続いて、昭和35・6年ごろから新しい住宅建設が続きました。日増しに増える児童が学ぶ千二校の校舎増築は再び大きな問題となってきました。鉄筋校舎の増築と分校の解消を求めて、当時のPTA役員会は何回もの会議を重ね、父母の方々は毎日のように市役所へ陳情に行きました。



●鉄筋校舎増築を祝って人文字航空写真(昭39・夏)

下の運動場で(今のプール当たり)  
昭和30年 27回生花組  
何人かの方は解ったものの私(萩原)  
は解らない。

大プールで元気いっぱいの  
子どもたち(昭和50年)



(創立50周年記念誌より)

その運動が実って、いよいよ昭和38年12月に既に完成している鉄筋校舎の続きに増築する工事が始まり、翌39年7月30日に完成しました。この増築工事の中では、特に先生方が設計業者と打合せを重ね、新しい時代の学習に相応しい図書室、音楽室、理科室などの特別教室の設計に力を入れました。こうして丘の上の鉄筋三階建校舎は、今見られる姿となり、繋がった廊下の長さは小学校では日本一といわれ、豪華船が浮かんでいるようだと言われ、評判になりました。この鉄筋校舎増築によって、昭和26年以来使っていた分校が廃止され、ここに全学年が揃って本校で学ぶようになりました。

- ▶校舎建築経費移りかわり
- 木造南校舎(大15) 16,675円
- 木造北校舎(昭4) 26,833円
- モルタル校舎(昭24) 2,550,000円
- 講堂改築(昭31) 1,950,000円
- 鉄筋校舎第一期(昭32) 40,466,760円
- 鉄筋四階建・東西二棟(昭53) 426,600,000円
- 新体育館(昭54・幼稚園含む) 330,000,000円
- ▶鉄筋校舎廊下の長さ 122m

そのころ、5・6年のクラブ活動の中で、郷土史研究クラブの共同研究が熱心に続けられました。このクラブのメンバーはテープレコーダーを下げて、佐井寺・千里山住宅・春日町を訪ねて歩き、土地の古い人から聞き書きしたり、実地調査をするなど共同研究の結果を昭和39年には一冊の本にまとめました。今もこの時の研究した本は三年生の社会科の勉強に役立っています。

千里山の北、箕面に続く一帯は雑木林、竹林が続く広大な丘陵地でした。戦前から戦後しばらくの間までこの地は吹田の小学校から遠足やうさぎ狩りに駆け回ったところで、佐井寺や山田、新田の農家の人々が耕す田畑、桃畑、筍の栽培地で、他にはほとんど人も通らない静けさでした。昭和36年からこの広大な吹田、豊中市にまたがる千里丘陵に、大阪府は一大ニュータウンを造る工事を始めました。38年には阪急電車は終点千里山駅から延長工事をし、南千里駅を造りました。一方千里山も住宅が増え続け、昭和42年度に千二校は44学級、1851人という過大校になっていきます。校区に新しい学校を造って、どちらも適正な規模の学校にする必要があるので、PTAは昭和

40年ごろから市役所へ陳情を重ねました。その結果、昭和43年に千里山西・緑ヶ丘に千里第三小学校が新設されました。阪急電車の線路から西側が校区となり、学校が分かれました。校舎が完成して、9月1日、その地区の一年生から三年生までが新しい学校へ変わって行きました。

## 五．思い出の記

まず千里第二小学校創立40周年記念誌に載せられていた先生方の当時の（団塊の世代が過ごした小学校時代）思い出話 3篇と、今回、団塊の世代の方々への呼びかけに応じて下さった2篇を掲載します。

### 木島憲次先生

ひかり あふれる 丘の上 ではじまる校歌。千里第二小学校制定として発表され、そして歌われてきて10年。

10年ひと昔というが、おそらく現在のこどもたちにとっても、生気あふれ希望にみちた校歌、即ち愛唱歌として、受けとめられていることと思う。

私が千里第二尋常小学校児童として過ごした6年間を含め30年間、母校には校歌がなかった。この希望の校歌が制定された時、幸運にも母校に在職し、その制定委員の一員として参画出来たことを感謝している。

### 太田得至先生

最初は大阪港区のさる坊さんが、私立桜蘭女学校の創設を思い立ち、校舎建設に踏み切った。ところが校舎完成後建設費の支払いができず、女学校設立はどうとう陽の目を見ないままに過ぎた。その後、私立千里山中学校がこの校舎を仮に使用するなど若干の経緯の後、新制の、大阪府立吹田高校がこの校舎で開設された。（吹田高校はその後、現在地に移転）そしてその後千二校分校が開設されたのである。

### 白井孝雄さん 30回生

駅より小学校へ続く山沿いの道、その山に、いつの日か黄色い機械が入った。未だ珍しかったブルドーザーによって、半ば削られた山に小道が有った。学校の帰りであっただろうか。小道を入ると、笹と繁った樹々の間に水たまりが有り、色々のトンボがいたことを思い出す。真っ赤なトンボを、私たちはよく見つけた。小さな小学生たちにとって、その道はジャングルへ誘う道であった。しかしその楽しみもそんなに長くは続かなかつた。黄色い砂地が緑を減らし、学校の前に巨大な、そして幾つもの鉄筋が建ち始めた。

私たちの遊んだ山は消え、私たちが木造校舎の前に並び、キャラメルをもらって勇んで出かけた“うさぎ狩り”の山も、今や万博に消えてしまった。それらの今や失なわれゆく自然にはぐくまれ自然に遊んだことこそ、今に思えば在校中の貴重な思い出である。